

播種精度を高めるコツ (湛水直播)

POINT 1 湛水直播 (自走式・施肥播種機)

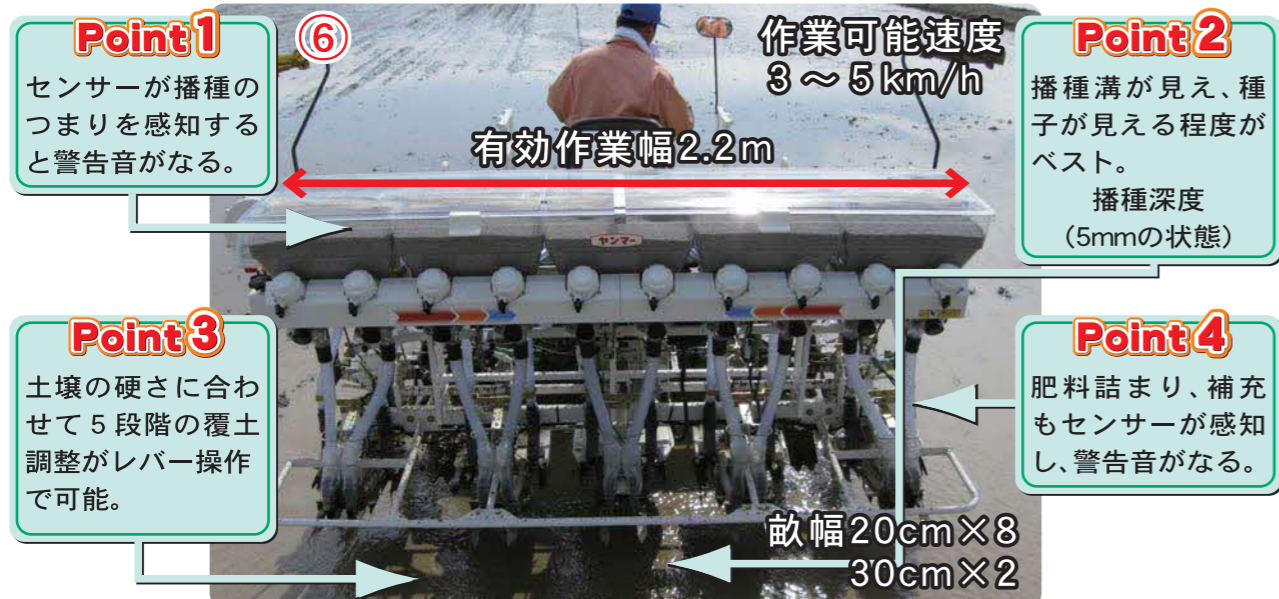
- (1) いわみざわ地域では条播機を基本とします。
- (2) 基本的な操作は田植機と同じです。
- (3) 代掻きは堅めで、できるだけ入水量を少なくし、作業を行ってください。



2 m 走行し実測

作業機を上昇させ、2m走行し、落ちる種子と肥料の重量を測定し調整。メジャー、カップ、測りが必要。

ゲージの調整は2カ所で播種と施肥があり、播種から調整をする。



Point 1
センサーが播種つまりを感知すると警告音なる。

作業可能速度 3 ~ 5 km/h
有効作業幅 2.2m

Point 2
播種溝が見え、種子が見える程度がベスト。
播種深度 (5mmの状態)

Point 3
土壌の硬さに合わせて5段階の覆土調整がレバー操作で可能。

Point 4
肥料詰まり、補充もセンサーが感知し、警告音なる。



汚れがひどい場合センサーが狂う。要洗浄。



操作や調整は簡単!

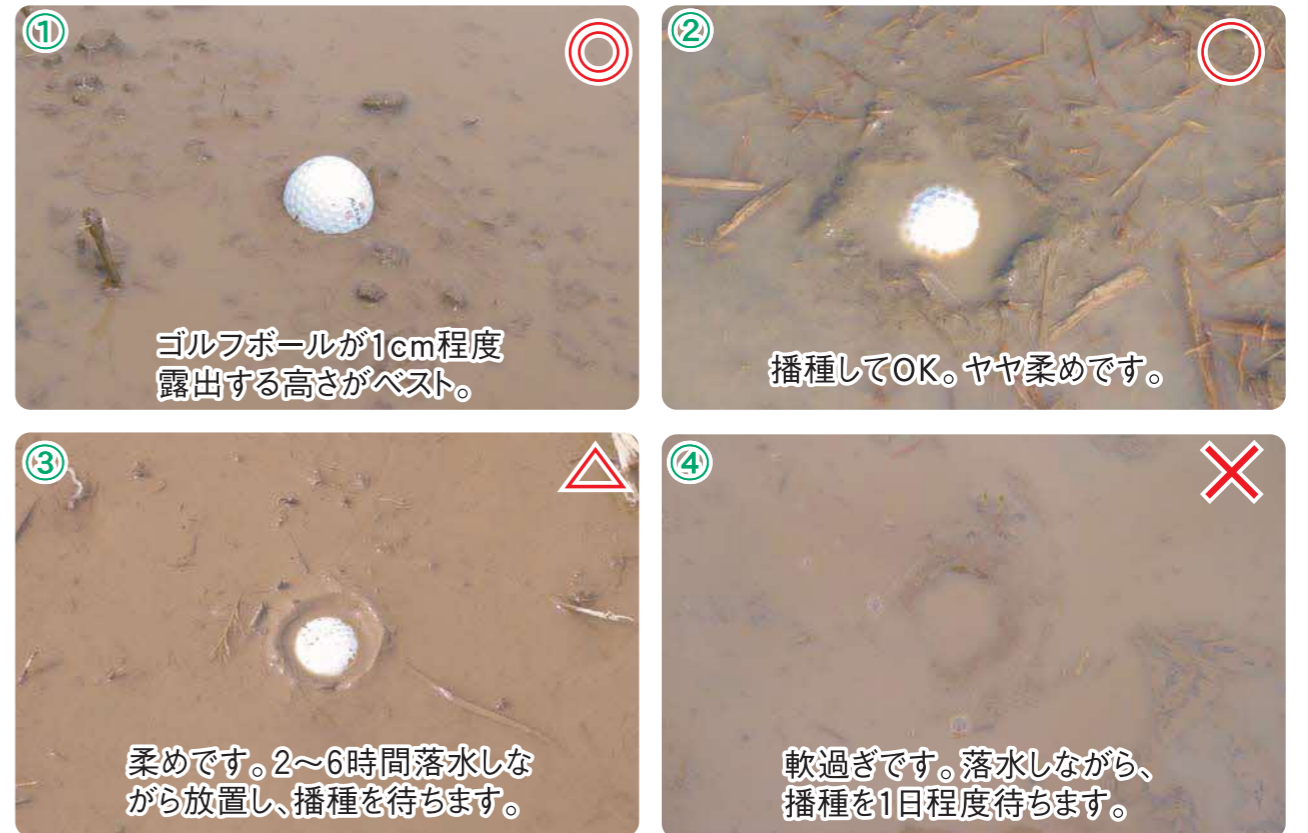


ところどころで種子がこのように見える程度がベストな深度です。

苗立確保のポイントと水管理 (湛水直播)

POINT 1 基本 湛水直播の播種適期は5月12~18日

- (1) 代掻きの状態を確認し、基本は播種前日の夕方(日差しに影響を受けない)から午前中に播種するほ場の落水を開始します。午後に播種のほ場は早朝落水です。
- (2) 再入水は積算温度の目安を参考に、根と芽の伸長を確認してから行います。
- (3) 24時間以上の水の停滞は、酸素不足を招き、催芽途中の種子を死滅させます。



① ゴルフボールが1cm程度露出する高さがベスト。

② 播種してOK。やや柔めです。

③ 柔めです。2~6時間落水しながら放置し、播種を待ちます。

④ 軟過ぎです。落水しながら、播種を1日程度待ちます。



⑤ 経験がものを言う



⑥ 播種溝は埋まらず、一部の種子が露出しているのがベスト

播種時のポイント
① 固い場合は、作業機の感度を調整し、播種溝にできるだけ土を寄せる。
② 柔らかくしようとするための再入水や、入水しながらの播種は厳禁!

《重要ポイント》

播種計画
稼働面積や天気を予測し、決定。

代掻き
播種3~5日前が望ましい。

落水
ほ場の大きさ、播種面積を考慮し、播種最初のほ場から、前日夕方より順に落水を開始。

代の状態判断
ゴルフボールで固さを確認し、直ちに播種できるかどうかを判断。



POINT 2 再入水の見極め

- (1) 播種日からの積算温度による目安を参考にします。
- (2) 発芽の筋がうっすらと見えるまで、再入水を我慢します。
- (3) 再入水は積算温度の目安を参考に、根と芽の伸長を確認してから行います。
- (4) 予備入水処理を2回行い、3回目に5cm程度の水を張ります。

⑦

筋が見えたら、根張りを確認し、1回目の予備入水開始

1回目の入水量
水深2cm程度（芽が隠れる位）

畦 予備入水1回目 直後 ▲はイネ

水面 田面

予備入水1回目 1日後

予備入水1回目 2日後

水面

【再入水の心構え】
苗に水を与える感覚を持つ

⑧

まだ窒息の可能性が高いので、停滞水は入水後、2日以内に無くし1日程度酸素を与えましょう。

⑨

酸素を十分に与えたら、再入水2回目に突入。

こんな時は要注意!!
出遅れても慌てない



こんなに乾いても芽は死滅していません。入水を慌ててはいけません。



必ず掘り、芽の状態を見て入水のタイミングを図ろう!

⑨

酸素を十分に与えたら、再入水2回目に突入。

2回目の入水量
水深3cm程度（芽が隠れる位）

予備入水2回目 直後

水面

予備入水2回目 1日後

水面

予備入水2回目 2日後

水面

⑩

油断は禁物!酸素を一日与えましょう。

このような状態に・・・手遅れ。

慌てて入水すると苗立ち最悪!!



こんな状態は最悪です。次を目安に廃耕か否かを決定しましょう。

- ① 90本/m²以下＝廃耕し転作
- ② 90本/m²以上＝継続し追肥対策を励行する。